

学びの実感を積み重ねる子ども発見！

小学校「国語科」1年

『くじらぐもまであとちょっと』…どの子ども楽しんで音読や動作化に取り組み、場面の様子を想像できた」姿

単元名 「好きな場面にせりふを加えて、音読発表会をしよう」 教材名「くじらぐも」
～人物の行動や場面の様子について想像を広げて読む～ 【5/9時】
本時の目標 登場人物の行動を動作化し、せりふを加える活動を通して、場面の様子について想像を広げながら読む。(読むことウ)

本時の授業について

本単元では、人物の行動や場面の様子について想像を広げながら読むことができるよう、好きな場面にせりふを加えて音読をするという言語活動を設定しました。単元の最後に行う音読発表会で、自分が好きな場面を選び音読をするという目的意識を持ち、登場人物の行動を動作化したリ、ワークシートにせりふを加えたりしながら読んでいきます。

本時は、まず、くじらぐもの掲示物を利用することで、子どもを物語の世界に誘っていました。次に、登場人物がジャンプする場面を全員で読みました。そして、くじらに応援されて雲の上に乗った部分を個人で豊かに想像しながら読みました。常に、子どもの思いを上手に引き出し、叙述を基に考えさせていました。

授業の終わりに、「まだやりたかった」「この次は何をやるのかな」という声が聞かれる授業でした。子どもは、次の時間に向けて自分が選んだ好きな場面の音読や動作化をする意欲を持つことができました。

場面の様子を豊かに想像するための授業展開



班で動作化

全体で深める

個人で考える

班で友達と話し合いながら動作化したことで、どの子どもも場面の様子をつかみ、自分の考えを持つことができました。

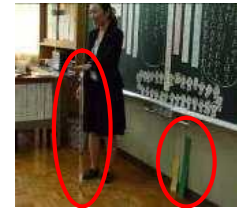
文章にせりふを加えながら読む経験がない1年生の子どもの実態を踏まえ、想像を広げやすくするために、登場人物になりきって読むことを通して学習を進めました。

前半は、登場人物がジャンプする場面でせりふを加えながら動作化しました。登場人物になりきることで、せりふや動作を考える必要感が生まれ、目的を持って読むことができました。そして、その考えを基に全体で話し合い、考えを深めました。

後半は、くじらに応援されて雲の上に乗った場面を、個人で想像しながらワークシートに書きました。班や全体で考えたことを基に考えを深め、自分の力で想像を広げながら読むことができました。

深めたいことを明確に押さえた話合い

「こんどは50センチぐらいとべました」の後にどんなせりふを加えたのか話し合っています。1年生にも高さを視覚的にイメージできるように、紙テープで提示してあります。



優美さん 「ここまではとべたぞ。」
智志さん 「50センチはとべたけど、まだまだ天までとどかないぞ。」
美佳さん 「天までいくにはもうちょっととんだ方がいいな。」
拓斗さん 「まだまだ天まで届かないから、もうちょっとがんばろう。」
遙香さん 「あと50センチぐらいいるな。」
智志さん 「100センチでも天までとどかないと思う。」
みんな 「1メートルってどれくらい？」

宮田先生 「1メートルはこのくらいだね。
みんなでもう一度教科書を読んでみようか。」
(前半部分を全体で音読する。)
「お話の中の子どもの言葉にするとどうなるかな。」

高さを話題にするほど思いが強まっている子どもに、教師は改めて本文の叙述に着目させました。

浩子さん 「50センチとべたのは、くじらが応援してくれたからだ。」
優美さん 「くじらが応援してくれたからもっととぶぞ。」
太郎さん 「くじらが応援してくれたから20センチも高くなってがんばろうって思ったよ。」

高さを話題にするほど、雲にのりたいという思いが強まっている子どもの状況を捉えた上で、宮田先生は、再度本文に立ち返り叙述に着目させました。そうすることで、子どもの読みがより深まり、場面の様子について想像をさらに広げていくと考えたからです。

この後、「もっと高く」と応援しているくじらに着目した子どもは、その子らしく想像を広げながら雲に乗ることができた喜びを仲間と存分に語り合いました。

この姿は、教師が本時の目標を具体的な子どもの姿から捉え、何を深めたいのかを明確にしていたからこそ生まれたものと言えます。

場面の様子について想像を広げた子どもの姿

やった。成功した。うれしい。くじらぐもの背中、ふわふわ。景色がきれい。この後、どうしようかな。

次はくじらぐもに乗って飛んでいる時のせりふを考えよう。



やっと乗れたよ。乗れた、乗れた。風さんのおかげだな。風さんありがとう。

町が小さいな。くじらぐもの背中に、やっと乗れたぞ。くじらくん、応援ありがとう。

「文学作品を課題に沿って読み味わい、交流を通して自分の考えを形成していく」姿

単元名 「3年生に紙上プレゼンテーションをしよう」 教材名「走れメロス」
 ～人物相互の関わりに着目して人物像を捉え、自分の考えを持つ～ 【7/8時】
本時の目標 メロスと他の登場人物・出来事との関係性について異なる考えを持つ友達との交流を通して、物語のテーマについて自分の考えを持つ。（読むことE）

本時の授業について

本単元では、「走れメロス」の文章の構成や展開、表現の仕方に注目し、学習してきたことを文章や人物関連図、表などにまとめながら自分の考えを形成していくことを目標としています。単元の後半では、3年生に向けて紙上プレゼンテーションを行い、3年生からも意見や感想をもらいます。

前時までに子どもは、「メロスとディオニス」「メロスとセリヌンティウス」など、メロスと様々な登場人物との関係性から、メロスの人物像について自分の考えを持ちました。本時は、斉木先生が「メロスの人物像から物語のテーマを考えよう」と投げ掛け、授業が始まりました。子どもは異なる考えの友達と交流したことで、メロスの人物像について多面的な見方を形成していきました。また、ホワイトボードを活用し各自の考えをメモしたり、登場人物の関係を図に表したりして視覚化し、さらに交流を重ねたことで、メロスの人物像がより明らかになり、物語のテーマにつなげて考えていくことができました。

付けたい力に迫るための言語活動

The board is titled '物語の展開' (Story Development) and '人物関連図' (Character Relationship Diagram). It features a central box labeled '物語のテーマ (本時)' (Story Theme (This Lesson)) with arrows pointing to 'あらすじ' (Synopsis). A red box highlights the 'あらすじ' section, which contains handwritten text: '人を信じることで自分を強くなる' (By trusting others, I become stronger). A speech bubble from the teacher says: '斉木先生が付けたい力に適した言語活動を工夫することで、子ども自身が目的意識・相手意識を持ち、主体的な学習になりました。' (By devising language activities suitable for the target skills, the children became more purposeful and aware of others, leading to more active learning). Another speech bubble notes: '3年生からの意見や感想が書かれた付箋が貼られています。3年生の意見は、自分の読みを振り返ることにつながりました。' (Sticky notes with opinions and comments from 3rd graders are attached. The 3rd graders' opinions are connected to reflecting on their own reading).

悠太さんの「紙上プレゼンテーション」

「私はこう読む」 今後の読書につながる文章の読み方を、「走れメロス」で学習

子どもは「走れメロス」を課題に沿って読み、叙述を根拠として思い思いに作品を味わっていきました。その中で、子どもはメロスの人物像やテーマについて意見交流し、自分と他者を比べることで新たな考えを取り入れたり自分の考えを深めたりしました。そして、終末で個別にそれまでの考えを整理しました。このような学習は、文学的な文章を読む際の「人物像を読む」「作品のテーマを考える」等の読み方につながります。斉木先生が、「作品のテーマについて根拠を基に自分の考えを持つ授業」を実践したことで、子どもは「走れメロスを私はこう読む」という自分の考えを持つことができました。子どもの読書活動の充実につながる授業です。

ホワイトボードで互いの考えを共有

ホワイトボードには、各自の考えや話し合った内容をキーワードにして書き込んでいきました。それにより、互いの共通点や相違点をはっきりさせることができ、考えが深まっていきました。このように、思考の過程をメモし、考えを視覚化することで、建設的な話し合いになりました。

斉木先生は、日常的にホワイトボードの活用を場を設けています。子ども同士で考えを共有できると同時に、教師も話し合いの過程を把握することができます。



メロスとセリヌンティウスは、かけがえのない親友なんだね。



【登場人物について】
瑞希さん 悠太さん

セリヌンティウスは裏切ろうとしたメロスの気持ちを分かって、受け入れようとしたね。「なぐってから優しくほほえみ」からセリヌンティウスの気持ちが分かるよ。

友達と交流したことで、悠太さんの考えが明確になっています。「信じ合う」ことについて友達の読みと比較し、物語のテーマについて自分の考えを再構成しています。

私はこの物語から、互いに信じ合えることのすばらしさを感じたよ。実際に王はメロスによって心を動かされて、信実とは何かを教えられたからね。「信実とは、決して～」の王の言動からそう思ったよ。



【テーマについて】

信じ合うことは大事だけど、簡単にできることではないよね。「メロスへのいくつもの障害がメロスに本音を言わせている」と他のグループの人が言っていたよ。作者は、あえてメロスの行く手を阻む障害を設定したのかもしれないな。

【本時のまとめ】(悠太さんのノート)
 信じ続けることの難しさと大切さを伝える物語である。信じていても不安から相手を疑う気持ちも出てくるが、それが結果的に自分を強くすると思う。信じ合うことは心の強さがないと、相手を信じ切れない。だからこそ信じ続けることが大切だ。